

開発者の想い

なぜ「ハイブリッド」なのか

草刈用チップソーに欠かせないタングステン。

近年、タングステンは軍民両用に利用される重要な材料でもあることから、

価格上昇や供給面の不安定さが大きな課題となっています。

しかし、材料価格が上がったからといって、ただ商品の価格を上げるだけにはしたくない。

「切れ味をできるだけ落とさず、タングステンの使用量を抑え、よりお求めやすいチップソーを作れないか。」

そこから私たちの新しいチップソーの開発が始まりました。

タングステン × バネ鋼という新しい発想

一般的な草刈用チップソーでは、

・外径230mm:36刃　・外径255mm:40刃　といった仕様が標準的に使われています。

私たちが考えたのは、タングステンチップだけに頼るのではなく、

タングステン刃とバネ鋼刃、それぞれの特徴を活かすことでした。

230mm タングステン刃 23刃 + バネ鋼刃 23刃 = 合計46刃

255mm タングステン刃 25刃 + バネ鋼刃 25刃 = 合計50刃

2種類の刃を交互に配置する独自の**「ハイブリッド構造」を採用しました。

タングステンの使用量を抑えながら刃数を増やすことで、

従来の標準的なチップソーと同等、あるいはそれ以上の切れ味を目指しています。

さらに「アサリ」で切れ味を追求

刃数を増やしただけではありません。

それぞれの刃には、ノコギリの刃のように左右へ振り分ける「アサリ」**を設けています。

この構造によって刃が材料へ入りやすくなり、スムーズな切断と良好な切れ味を狙いました。

長時間使うものだから、できるだけ軽く

草刈作業では、チップソーを装着した刈払機を長時間振り続けることがあります。

わずかな重量差でも、長時間の作業では負担の違いにつながります。

そこでハイブリッドチップソーでは、性能だけではなく軽量化にもこだわりました。

少しでも作業する方の負担を軽減できるよう、必要な強度とのバランスを考えながら設計しています。

「消耗品だからこそ、できるだけ買いやすい価格に。」

チップソーは、どれだけ大切に使ってもいつかは交換が必要になる消耗品です。

だからこそ私たちは、

「良いものを作る」だけではなく、

「できるだけ価格を抑えてお届けする」ことも性能の一つ

だと考えています。

タングステンの使用量を抑えながら、バネ鋼刃を組み合わせ、刃数・アサリ・軽量化まで工夫する。

そうして生まれたのが、「ハイブリッドチップソー」です。

切れ味、軽さ、そして価格。

材料価格や供給環境が変化する時代だからこそ、従来のチップソーの常識にとらわれず、新しい構造に挑戦しました。

私たちは、このチップソーをできるだけ多くのお客様に使っていただき、

日々の草刈作業に役立てていただきたいと考えています。